

第2次
粕屋町地球温暖化対策実行計画
(事務事業編)

— 令和4年度(2022) 実施状況報告 —

令和6(2024)年3月

福岡県粕屋町

1 温室効果ガス排出量の経年変化

町の事務・事業に伴う温室効果ガス排出量は減少傾向で推移しています。2022年度の排出量は、基準年度の2013年度と比べて約42%減少しています。

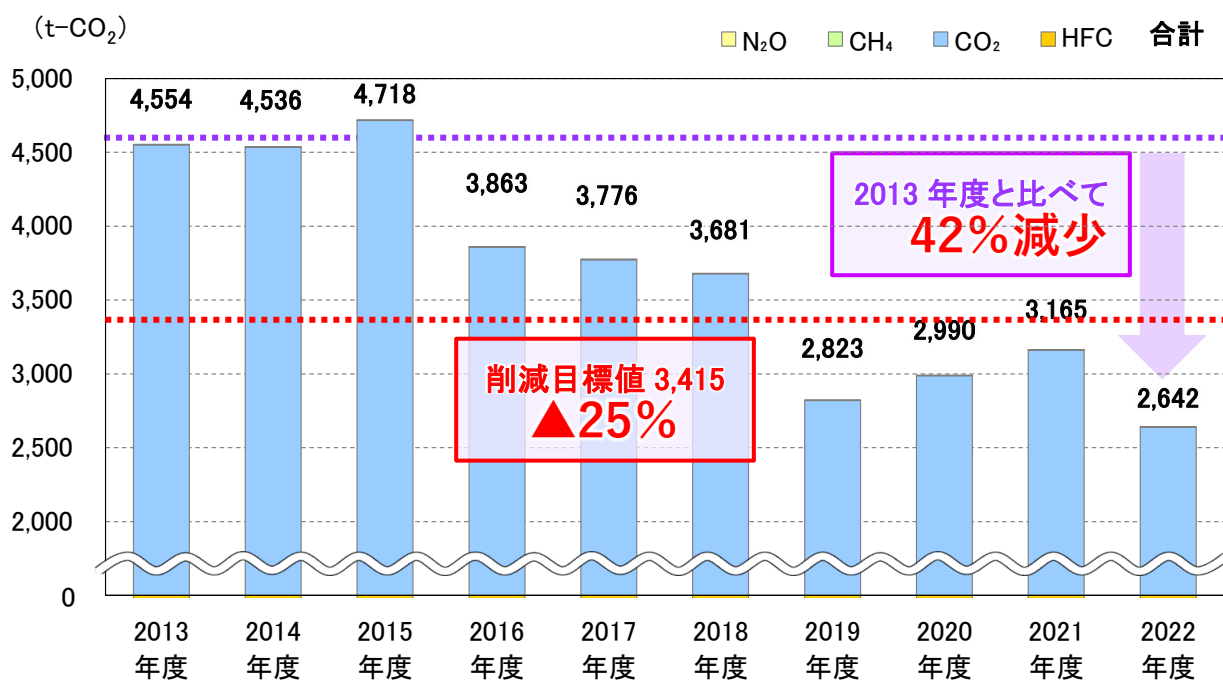
温室効果ガス別にみると、メタン（CH₄）と一酸化二窒素（N₂O）、ハイドロフルオロカーボン（HFC）の排出量は横ばいで推移しています。これらのガスは二酸化炭素（CO₂）と比べて排出量が少ないため、二酸化炭素の排出量の変化が総排出量に大きく寄与しています。

◇温室効果ガス排出量の内訳(2013～2022年度)◇

区分	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
二酸化炭素	4,552	4,534	4,716	3,860	3,774	3,679	2,820	2,987	3,162	2,639
メタン	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
一酸化二窒素	1.5	1.5	1.6	1.6	1.5	1.5	1.6	1.5	1.4	2.2
ハイドロフルオロカーボン	0.5	0.5	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.7	0.6	0.9
合計	4,554	4,536	4,718	3,863	3,776	3,681	2,823	2,990	3,165	2,642
2013年度との比	-	▲0.4%	3.6%	▲15.2%	▲17.1%	▲19.2%	▲38.2%	▲34.6%	▲30.8%	▲42.2%

※端数を整理している都合上、表中の数字と合計が一致しないことがあります。

※算定に用いる基礎排出係数は、公表時期の都合により、算定する年度の前年度の実績値を用いています。
 「地方公共団体実行計画（事務事業編）策定・実施マニュアル（本編）」（令和5年3月、環境省）、及び
 「地方公共団体実行計画（事務事業編）策定・実施マニュアル（算定手法編）」（令和5年3月、環境省）。



◇2013～2022年度の温室効果ガス総排出量の経年変化◇

2 エネルギー使用量の経年変化

町の事務・事業に伴うエネルギー使用量（熱量換算値）の推移をみると、2017年度以降は79,000 GJ前後でおおむね横ばいに推移しており、2013年度よりもエネルギー使用量が多い状況が続いています。2022年度のエネルギー使用量は、基準年度（2013年度）比で約6%増加しています。

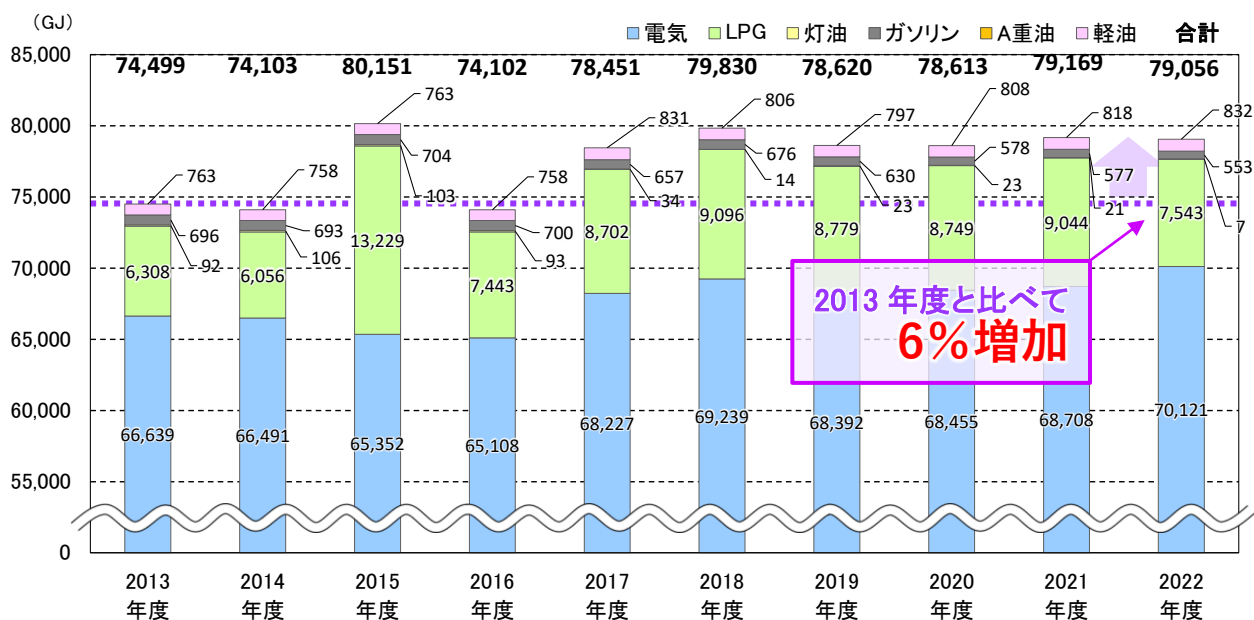
◇燃料種別エネルギー消費量の経年変化◇

(GJ※)

項目	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2013年度との比
電気	66,639	66,491	65,352	65,108	68,227	69,239	68,392	68,455	68,708	70,121	5.2%
LPG	6,308	6,056	13,229	7,443	8,702	9,096	8,779	8,749	9,044	7,543	19.6%
灯油	92	106	103	93	34	14	23	23	21	7	▲92.4%
ガソリン	696	693	704	700	657	676	630	578	577	553	▲20.6%
A重油	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
軽油	763	758	763	758	831	806	797	808	818	832	9.0%
合計	74,499	74,103	80,151	74,102	78,451	79,830	78,620	78,613	79,169	79,056	
2013年度との比	-	▲0.5%	7.6%	▲0.5%	5.3%	7.2%	5.5%	5.5%	6.3%	6.1%	

※端数を整理している都合上、表中の数字と合計が一致しないことがあります。

※GJ（キガジュール）：省エネ法に基づくエネルギー使用量の換算係数 J（ジュール）＝W（ワット）×S（秒）



◇2013～2022年度のエネルギー使用量◇

3 温室効果ガス排出量の削減目標の達成状況

町の事務・事業に伴う 2022 年度の温室効果ガス排出量は 2,642 t-CO₂です。これは基準年度である 2013 年度（4,554 t-CO₂）と比較すると約 42.2%の減少となります。

減少の要因には、電気事業者の基礎排出係数の低下によるものと省エネなどによる電気使用量の減少によるものがありますが、2013 年度から 2022 年度の変化を見ると、基礎排出係数の低下による排出量の減少が大きい一方、エネルギー使用量が増えているため、省エネルギー対策等による排出量の削減効果は出ていないといえます。

本計画では、2023 年度における温室効果ガス排出量を 2013 年度（基準年度）比で 25%以上削減することを目標としており、2022 年度の結果から目標年度である 2023 年度においても、達成できる見込みです。

◇粕屋町と契約実績のある電気事業者の基礎排出係数◇

(kg-CO₂/kWh)

電気事業者	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
九州電力（株）	0.612	0.613	0.584	0.509	0.462	0.438	0.319	0.344	0.365	0.296
基礎排出係数の 実績値年度*	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度

出典：電気事業者毎の調整後排出係数一覧<令和 3 年度実績（R5/1/24 公表、R5/7/18>一部追加・更新）>
(環境省 地方公共団体実行計画策定・実施支援サイト)

※ 算定に用いる基礎排出係数は、公表時期の都合により、算定する年度の前年度の実績値を用いています。

例：2022 年度の二酸化炭素排出量を算定する場合の排出係数は、2021 年度の排出係数（九州電力の場合は 0.296）を用いて算定しています。